

サトウキビのとうど

上原 夕芽・玉城 凜

那覇市立小禄南小学校4年



1. 目的・どうき

(1) 目的

南部、中部、北部の土地でさいばいされているサトウキビのとうどにちがいがあるか調べる。

(2) どうき

沖縄の食材図かんを見ていたら、サトウキビは野菜とわかって、きょうみを持ちました。サトウキビのあまさやくちょうについて、もっと調べてみたいと思いました。

2. 方法・内容

(1) 南部・中部・北部のさとうきびのとうど調査

糖度（とうど）

とうどとは、くだものなどのあまさを数字で表したものです。とうど計の数字が大きいほどあまいことを表しています。

①まず、南部、中部、北部のサトウキビ農家から、サトウキビをわけてもらう。

②次にサトウキビをしぼり、そのしぼりじるのとうどをとうど計ではかる。



(2) 南部・中部・北部の土のとくちょう

土のとくちょうは、pHで調べることができる。pH（ピーエイチ）とは、水にとけたものがさん性やアルカリ性かを知るための数字である。pHが7よりも小さい数字のときさん性で、7より大きい数字のときはアルカリ性となる。pH7のときが中性となる。

- ①まず、南部、中部、北部のサトウキビ農家から、畑の土をわけてもらう。
- ②次に、土を水にまぜて、しばらく待つ。
- ③最後に、pH紙で調べる。

南部、中部、北部の土について調べたこと

- 南部：アルカリ性の島尻マーヅ、ジャーガルが広がっており、野菜作りにとてもきした土地です。
- 中部：中性の国頭マーヅが広がっています。
- 北部：さん性の国頭マーヅが広がっており、パイナップル作りにてきしています。



(3) さとうきびさいばいについて

さとうきびさいばいの様子について、農家の方に取材しました。

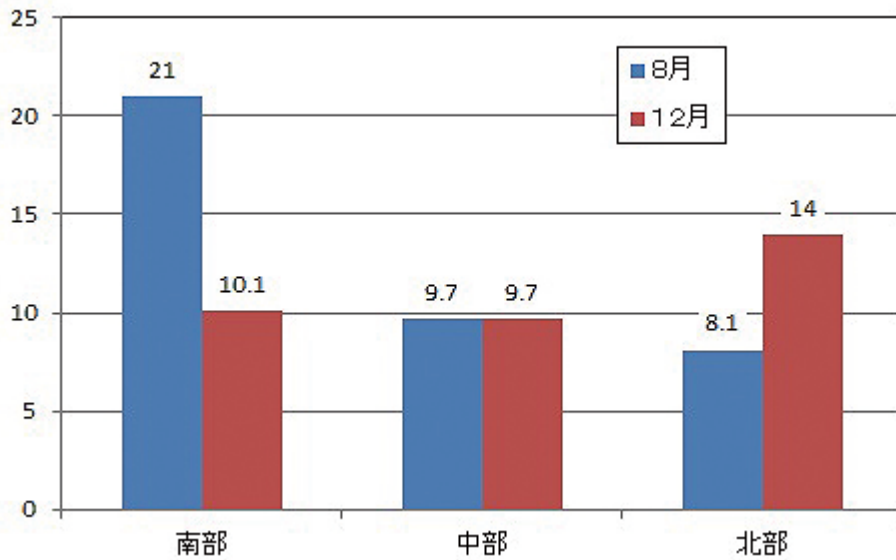
- さとうきびは草取りが大変で5月から9月が一番いそがしいそうです。
- つゆ明けになるまでが苦勞するそうです。
- さとうきびは台風には強いですが被害は極めて大きいです。
- 植え付けは、トラクターではまっすぐ植えられないので手植えするそうです。
- 収穫のときも手作業が多く大変だそうです。



3. 結果

(1) さとうきびのとうど (サトウキビのひんしゅ)

	南部 (農林8号)	中部 (農林20号)	北部 (台農17号)
8月	21	9.7	8.1
12月	10.1	9.7	14.0



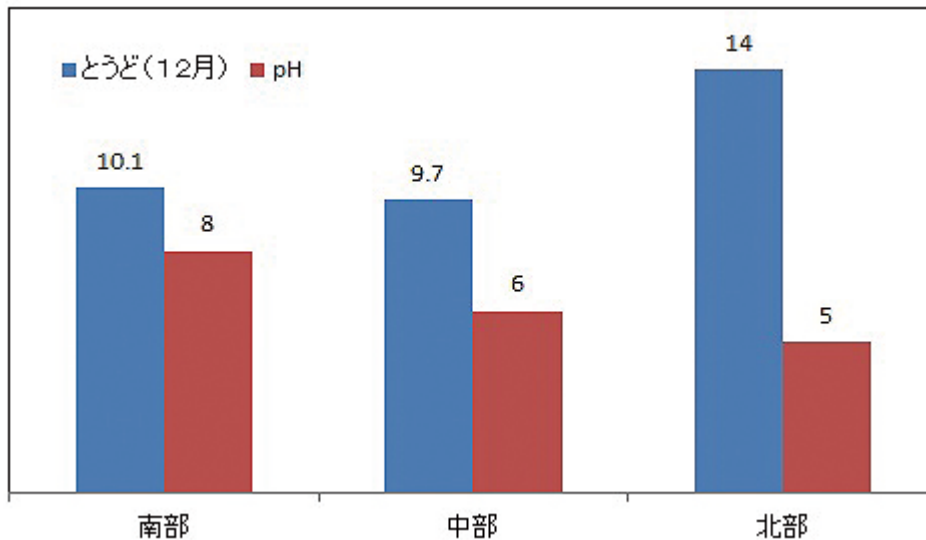
○南部のとうどは、8月は1番高かったですが、12月は8月よりとうどが下がっていました。

○中部のとうどは、8月も12月も同じでした。

○北部のとうどは、8月から12月で5.1度上がり、12月では一番高くなりました。

(2) 土とさとうきびのとうどの関係

	南部 (農林8号)	中部 (農林20号)	北部 (台農17号)
とうど (12月)	10.1	9.7	14.0
土のpH	7~8 / ややアルカリ性	6 / やや中性	5 / 酸性



- さん性の土で育った北部のサトウキビは、一番とうどが高い。
- 中性とアルカリ性で育ったサトウキビのとうどは、ほとんど差がない。
- 取材では南部のサトウキビがとうどが高いと聞いたが、今回の実験では南部のサトウキビは北部のサトウキビの次にとうどが高い結果だった。
- 取材では北部はサトウキビさいばいあまり適していないといわれたが、今回の実験では北部のサトウキビのとうどは、一番高い結果だった。

4. まとめ

(1) 今回の研究でわかったこと

- サトウキビのとうどは、北部>南部>中部の順で高かった。
- 土のpHを調べた結果、南部はややアルカリ性、中部はやや中性、北部は酸性であった。
- サトウキビのとうどと土のpHには、はっきりとした関係が見られなかった。

(2) 新しくぎもんに思ったこと

- 今回の実験結果では、北部のサトウキビのとうどが一番高かったけど、北部の農家さんの取材ではさとうきび作りに適していない土地とっていました。なぜ、実験結果では北部のサトウキビのとうどが一番高かったのかぎもんに思った。
- 南部のサトウキビについて、8月のとうどは21度で12月の10.1度より高かった。なぜ、とうどが下がったのだろうか。

(3) 感想

今回、サトウキビについていろいろ調べてみて、わたし達はサトウキビは沖縄県がじまんできる野菜であり、なくてはならない物なんだなと思いました。また、サトウキビは昔から植えられてきた、沖縄の伝とうてきな作物だと思いました。

